

魚津市新庁舎整備検討委員会 第6回会議 会議録（要旨）

【開催状況】

- 1 開催日時 令和6年1月29日（月）13:30～15:30
- 2 開催場所 魚津市役所4階 第1委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員
浦田委員、大島委員、大野委員、木下委員、清水委員（会長）、西村委員、野澤委員、山本委員、米澤委員
 - (2) 市
副市長、財政課長ほか事務局員
 - (3) コンサルタント
株式会社 建設技術研究所
- 4 欠席者
石川委員、平田委員、吉森委員

【関連資料】

- 資料1 魚津市新庁舎整備に向けた高校生ワークショップ報告書
- 資料2 魚津市新庁舎整備基本構想（案）

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 魚津市新庁舎整備基本構想（案）について
- 3 その他
- 4 次回の会議日程
- 5 閉会

【事務局】

資料1及び資料2（「3 新庁舎整備の場所」まで）について説明。

委員長

資料2の基本構想(案)について、「3 新庁舎整備の場所」まで説明していただきました。新庁舎の整備場所について、どうやって絞り込み、最終的にどこに選定をしたのかということ、またこれまでの話し合いを振り返っていただきました。ご質問やご意見をいただけないでしょうか。

A委員

この候補地6つについて、海岸線からの距離や高度が書かれていません。吉田グラウンドあたりに魚津断層帯が通っているのではないかと思います。標高を記載した方がいいと思います。地震を受けてそのように感じました。

副市長

1日の地震が震度4ということで、皆様大変驚かれたと思っています。また、その後の津波警報もこれまでの記憶にはないようなものでした。この津波警報により、皆様一斉に避難され、県道は山に向かう車でいっぱいになり、全然動かないという状況だったということです。車で避難するのはあまり良くないのですが、山の方まで逃げるとなるとこのような状態になるということです。どの範囲の方がどこへ避難すべきか、逃げた後に避難場所の開設をどうすべきかについてしっかりと検討していく必要があると思っています。能登半島の方が非常に大きな被害があり、大変な状況になっています。幸い魚津市においては一部で被害が出ていますが、それなりに復旧しているという状況です。魚津市は、発災直後から氷見市などへ給水車を出したり、職員を派遣したりして応援にも行っています。災害協定を結んでいる場所もありますので、そのあたりへの応援も今後しっかりしていく必要があると思っています。

今ほどA委員が海拔についておっしゃいました。魚津市内の電柱には海拔が書いてあるのですが、この拠点施設になるところの海拔についてももしっかり書いていく必要があるということです。現在の市役所は海拔20mありますので、基本的に3mあるいは5mの津波であってもこの辺りまでは大丈夫だと思っています。ただ、東日本大震災のような大きな津波になると、どこかの庁舎で2階も全部波に飲み込まれたということもありますので、それなりのものが必要になると思っています。今回の地震では、多くの市民の方々が市役所に避難してこられましたので、3階と4階の方にも上がっていただきました。特に海岸沿いの方は、逃げるための高い場所が必要だと実感したところです。この市役所については耐震性には優れていないのですが、たまたま魚津と入善だけが震度4ということで、揺れはそんなに強くはなかったのですが、4階の一部などに少し被害が出ました。例えば震度6ならどうなっていたのかと思うと、ぞっとするようなところもあります。一刻も早い建て替えが必要

なのかと思っています。いずれにしても、海拔等については記載したいと思います。旧体育館のところについては少し標高が高いのですが、他の各候補地はだいたい市役所と高さ的には変わらない場所と思っています。

魚津断層帯の話ですが、今は国道8号が通っていますが、明確な場所が示されているわけではなく、その周辺をずっと朝日から上市へと走っているそうです。こちらは少し離れており真上ということではありません。今回の能登地方のようにやはり真上にある地盤が直接4mも動いたりするとそれは酷いこととなりますが、魚津断層帯はそのようなことはないということです。

B委員

自治振興会連合会では、地震が起きるかどうかという調査の要望を毎年県へ申し上げております。ただ、県からは、なかなか難しいのでそのうち頑張ってくださいという答えしか返ってきません。

去年の12月9日、自主防災会が中心になって東日本大震災の体験談や東北大学准教授の講義を聞く機会があり、私も参加させていただきました。地震の専門家だということで、調査について県へ毎年要望はしておりますが、朝日から上市まで何10キロにも渡って魚津断層帯がありますのでいかが思われますかということと、いったん地震が起きた場合にはどれくらいのレベルの災害が起きますかということをお聞きしたら、輪島とか珠洲の辺で起こった場合、富山湾は引っ込んでいますから、大した被害はないでしょうと言われました。ところがそれから20日後に元旦の地震が起きました。地下の動いている状態が分かるようなものを導入して調査しなければならないので大変な費用がかかりますと、でもこの辺りは心配することはないでしょうというような言い方をされたものですから、来年から県へ要望を出さなくてもいいかと思ったのですが、このようなことになってしまいましたので来年以降も調査の要望は続けていくべきだろうと思いました。けれども、学者でもなかなか分からないということがよく分かりました。大して心配することはありませんと言いながら、能登で起きた地震が影響あるわけですから、A委員がおっしゃたように心配なことは心配です。本江の国道8号の橋を渡ったところのセブンイレブンあたりに魚津断層帯が通っているらしいので、そうそう安心ばかりはしてられないということが私の結論です。

副市長

断層帯については、日本中至る所にあるということと、今回の能登半島地震の場合はこれまで発見されていなかった海の中の断層帯が動いたということですから、富山湾にしても海の中で何かが動いた場合どうなるのかということとは分かりません。市として国の方に魚津断層帯の精密な調査を実施するよう10年以上前から要望しています。しかし、この地域の優先順位が低く、南海トラフや表日本の40mほどの津波が来るところの調査がどうしても優先されてきて、なかなかこちらのほうまでは来ないという状況なのですが、今回の地震もありましたので、さらに力を入れて要望していきたいと思っています。

被害についてですが、刺し網やバイ籠などがなくなっており、定置網のアンカーという重りが全部なくなっているという話も聞いています。海の中でいろいろな変動が起きているということで、富山湾は特に急な崖になっていますから、それが崩れたのではないかと言われております。崩れたことによって津波が発生し、波は富山や射水の方に向かったのではないかとこの話もあります。能登の方で起こった津波がこちらの方に来たのかどうかは分からず、新潟の方に行っているのではないかとこの話にも思われます。津波もそうですが、どこで発生するかによって災害の内容は大きく変わってくると思います。それと、液状化というのは、どうしても起こる場所では起こることとして、特に埋め立てしたところなどは発生しやすいというものです。これから農作業などが始まると、例えば田んぼや用水で壊れているところがあるかもしれませんし、あるいは山の中でいろいろ崩れているところもあるかもしれません。ですから、これら被害がまだ確定したわけではないのですが、とりあえず生活していく範囲の中で何とか被害は復旧の段階にあると思っています。ですが、今後どのような地震が起きるか分かりませんので、対策は絶対に怠ってはならないと思っておりますし、市役所の庁舎につきましても、当然災害に耐え得る施設であるべきと思っております。いろいろ計画しているのですが、今回の地震で改めてそのように思いました。

A委員

魚津市内の地震計はどちらに設置してあるのですか。

副市長

市役所の前の公園と消防署にあります。気象庁が設置したものは市役所前の公園です。このあたりは意外と地盤がしっかりしているようで、場所によってちょっとした地盤の違いで違うらしいです。

委員長

震度が5よりも大きくなると国からの支援に影響があります。そもそも日本全国の活断層調査で、副市長が述べられた優先度では、先ほど述べられた魚津断層帯は県内でもそんなに上の方ではなく、呉羽山断層帯のほうが危ないと言われております。魚津断層帯というのは実質2本に分かれているそうです。山側の松倉金山のあたりを通るものと、皆様がおっしゃった海側に寄っているものです。海側に寄っている方が活動するのは、国の活断層調査の報告によると比較的小規模だと予想される方に位置付けられていて、はっきり言って重要視されていません。もし揺れたら大変です。震度6ぐらいになったら、今皆様がいらっしゃるこの建物は崩壊すると予想されます。その他ご意見はありますか。

C委員

前段の用地、作る場所についての話は今まで散々しまして、この委員会の中で決定したことです。それはそのままいいと思っています。

ただ、私も一番心配したのはこちらの土地です。先ほど液状化の話もされましたが、こちらの土地というのはどちらかと言えば緩い沼田みたいな感じの農地であったという記憶がありますので液状化が心配されます。ですから、地盤をきちんとした上で建てなければいけないということは一番思いました。

事務局

今のご意見の地盤についてです。かなり前の調査になりますが、この庁舎を建てた時の地盤のボーリング調査の結果、非常に良質な地盤であるという報告を受けています。それと、今現在の商工会議所ビルが実施されていますボーリング調査の結果を見せていただいたところ、現庁舎の調査結果と類似していました。同じ地層が流れ的に続いている感じであったものですから、比較的安心しておりますが、実際に建てる時には、しっかり調査して整備を進めたいと思います。

D委員

私も今のお話はおぼろげながら聞いていましたので、大丈夫だろうと思っていました。

今回の地震で問題だったのは、避難所が一部開設されなかったということです。施設予約の仕組みのオプションでスマートロックを導入されると思いますが、まだ地震が起きる可能性があると言われておりますので、ぜひ前倒しをお願いします。

それから避難所の備蓄を含めて市長もかなり課題があったとおっしゃっていましたので、それについて課題解決というのは今どのような状況にあるのか教えてください。

副市長

施設の開閉につきましては、市の方が渋滞に巻き込まれて、特に山の方に避難されたものですから、避難所に到着するのに時間がかかり、鍵を開けられなかったということです。基本的にそのような場合は、防災計画上はガラスを割って入ることになっているのですが、罪の意識もあり、なかなかそれができなかったということです。あるいは、地元に鍵を持った人がいたりするのですが、その人たちがたまたま来られなかったということもありますので、しっかりと鍵の所在を再度確認するというのと、今おっしゃったスマートロック等の導入を検討中です。

備品等につきましても、やはり毛布食料品などいろいろ問題はあったと思います。体育館はどうしても冷えるのでもっと毛布なども必要でしょうし、体育館を暖めるようなことも必要になってくると思います。食料品についても、1食ですけれども冷たいものしか食べられなかったということです。避難された場所によっては、温かい食べ物が出たところもありますが、市の方はどうしてもカンパンとか最初はそのようなものになってしまいますので、いきなり温かいものが出てくるというのはなかなか難しいと思っています。最低限5年間ほどは備蓄する品物になりますので、最初の一食二食は、それで我慢してもらう必要があると思っておりますけど、いずれ救援体制が整えば、温かいものも出てくるだろうと思います。

今回、特に水の関係が非常に重要だと思いました。地震の関係に関わらず、水道施設や下水道施設の耐震化は非常に重要なことだと改めて認識しましたし、国の方でそのようなことに対してたくさん助成してもらおうということが、地震大国の日本にとっては非常に必要なことだと思っています。

委員長

今回の能登半島地震に伴って、魚津市として避難所の問題や渋滞の問題などたくさんの課題について検証して下さったということです。

A委員

今回の地震を受けて私が経営している会社を地震の構造の先生に見に来ていただきました。能登半島や長岡でいくつか手がけられた先生だったのですが、免震構造をやったところで自分が指導したところがどうなっているかということを経験後に即見に来られたそうです。七尾の病院を見に行ったら、病院の建っている敷地は大丈夫だったのですが、玄関から先は液状化で傾いていたということです。近くでいうと県民会館は、改修した時に全部の柱を持ち上げて切って免震工事をされています。そちらも全く大丈夫だったということです。

市役所というのは防災の拠点になるわけですから、耐震のことが一番問題で、建て替えなければならないということが今回の一番大きなテーマだと思っています。バリアフリーについてはお金をかければできることですが、耐震についてはどうしようもないので建てる必要があるということで市民の皆様のご合意を得られるのではないかと思います。そのあたり十分書いてありますから、もう少し先程に議論が出たことを加えていただければいいと思います。

D委員

建設技術研究所にお聞きしますが、今回のような地震対応についてはいかがですか。

事務局（株式会社 建設技術研究所）

実際に現地の方にも弊社社員も何人か入っておりますし、どちらかというとこれからの街づくりです。いろいろ地盤が動いたりとか、火災が起こったりとかいうところで、災害復興も一緒に対応させていただいています。

D委員

決められた建設場所は、問題ないという認識でよろしいですか。

事務局（株式会社 建設技術研究所）

例えば液状化など皆様ご懸念の点に関して、この敷地に関しては大きな問題はないものという認識をしております。

副市長

今の地盤も十分耐用性があるということです。少しの地震では壊れない新庁舎の実現を建設技術研究所の皆様と共に進めていきます。

先程免震や耐震と色々ありました。建物の高さやいろいろなことによって、どのような地震に対応するシステムがいいのか変わってくるそうです。今後、この地域にあった一番いい形のものにしていきたいと考えています。

事務局

地盤のボーリング調査のことですが、来年度の予算として要求をさせていただいてまして、新庁舎の配置計画が決定しましたら2か所程度のボーリング調査をして安全性について確認させていただきたいと考えています。

委員長

貴重なご意見をいただきました。現庁舎の現状、新庁舎整備の必要性に関して、耐震ということをもう少し前面に出すことが重要というA委員のご意見がありました。新庁舎整備の必要性の1番目に書かれていますが、もう少し耐震の必要性に関する記載を強調すれば市民の皆様も分かりやすいので、資料2の中に少し付け加えたらよいというご意見です。

防災や今回の地震絡みのご意見がたくさん出ました。この建物は震度6にはとても耐えられないだろうということもあります。用地が決定されていること以外に、この用地の地盤調査についてのご意見も出ましたので、そのような点からもこの用地は適しているということを示していただけると強化されるということです。

では、引き続き後半部分をお願いします。

【事務局】

資料2（「4 新庁舎の機能」以降）について説明。

委員長

後半部分は、資料2の18ページ以降についてです。「4 新庁舎の機能」、「5 新庁舎の整備規模及び事業費の考え方」、「6 今後の事業計画」という大きな3つの見出しにより詳細に書かれています。特に冒頭の18ページの基本理念、基本方針、整備の方向性という風に細分化してそれぞれ説明していただきました。

では、事務局の説明に関してご意見、ご質問をお願いします。

E委員

私も意見と言いますか経験ですが、私が勤めている会社でも7階に事務所がありまして、地震があった時に社員の1人がその場所を見に行き行って写真を撮ってきたのですが、やはり

物が倒れていたりだとか、比較的私が勤めているフロアというのは事務が多いものですか、書類が散乱したりそういったことがありました。

今回、新庁舎の整備を進めていく中で、特にデジタル化に対応した部分についての記載があります。30ページの必要面積の増減要因にも、デジタル化を進めていけば必要面積が減少する可能性がありますと書いてあります。ペーパーレス化というのは今ある既存の紙資料のデータ化というところもありまして、私が務めているところでは非常に時間がかかっております。間に合わない部分については外注することもできますので、そのようにしていただければと思います。

壁に固定していないキャビネット等が倒れたりしましたし、固定したものであっても中身がバラバラになって、それを整理するのに時間もかかります。データ化しているということであれば、クラウド化ということで、いろいろな安全な場所にデータを保存しておくことができます。デジタル化を基本計画を策定していく中で早急に取り組んでいただいて、市民の方に金額等をお示しできるときには、ここまでやったんだということも取組としてお伝えいただければ、より防災意識も高まり、理解も進んでいくのではないかと思います。

副市長

今ほどのお話ですが、新庁舎を整備するにあたっては今おっしゃったようなことに十分配慮したいと思いますし、現時点においてもいろいろDX化を進めているところです。先ほどの施設の鍵を開けることも含めまして、市民の方々にとって利便性の高いDXを進めていきます。市役所に来られなくてもいろいろなことができるということを進めていきますし、最近ではAIチャットに質問ができるということも始めております。様々なことについて、このようなものを活用しながら利便性を高めて、書類等がなくなるような努力をしていきたいと思っています。すでに電子決裁、電子入札、電子契約など、電子の方に移行していきまして、なるべく書類がたまらない契約事務の遂行体制を築いています。新庁舎が完成するまでにはかなり時間がありますので、システムの・ソフト的な部分は十分検討して、効率的なスペースを作れるようにしていきたいと思っています。一方で、災害時に人々が避難される場所の確保についても必要なかということもあります。そのあたりの兼ね合いを考慮していく必要があるということです。

D委員

25ページの将来人口と庁舎の組織体制・職員数の想定ということで、将来人口の算定があります。赤が市の計画、長期的な展望。そして青が国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計ということです。社人研の数字と市の実績を見た時に差があるケースが多いとは思っていたのですが、こんなに大きく社人研を上回るような市の計画というのは正しいのでしょうか。

副市長

正しいかと言われれば正しいと思っています。社人研の計画は、ある時点から今後時間の経過に伴って、現在の人口や年齢別の状況によるとどのようになるか統計的に算出したものです。一方、市の方の人口計画というのは、いろいろな住宅政策、企業誘致、子育て条件の緩和などいろいろなことを導入して、なんとか住みやすい街を形成しながら人に入ってきてもらい、できるだけ人口が減る速度を抑えるようにしようという計画になっています。これは魚津だけではなく、大体他のところも同じように計画を立てています。

D委員

今おっしゃったことは、当然理解はしております。私たちが計画を作る時は、いい風に推移した場合の計画やある程度厳しい局面に立った時の計画などいくつか計画を持って、その時に事業をどう維持していくかということを考えていきます。そのような意味では、これは今おっしゃった計画がある程度順調に行った場合の数字に見えたものですから、あえてこのような質問をさせて頂いているわけです。ですから、そのこのところの見方をもう少し考えておかれた方がいいのではないのでしょうか。

副市長

おっしゃったように 順調に行った場合にこれぐらいになるという計画です。社人研のようにできるだけ急激に下がらないよう、いろいろな政策を講じて上の赤い線になるように頑張っていくということです。ただ、その乖離が明確になってくる時点で見直しをします。赤い線をいつまでも保っているかということそうではないので、青い線に近づいていくことにもなりかねないと思っています。

D委員

赤い線で行っていただきたいという思いもあるのですが、そのような危険性もあるという事です。

23 ページの DX や将来の変化への対応というところなのですが、将来の DX という表現は正しくなくて、今すでに DX は始まっています。令和 11 年に運用が始まるとするならば、DX はある程度先進的に進めていった結果が令和 11 年の庁舎になりますので、そこをしっかりと見据えたものにしておかないといけないということを改めてお願いしたいと思っています。建設技術研究所の皆様もいろいろな数字をお持ちだと思います。要は、役所は昔と違って、手続きがメインの場所ではなくなってきたということを踏まえて、役所の機能のあり方ということを皆様に考えていただきたいのです。コンサルをされるのであれば、いろいろな統計的なもの、それから現状の数字を踏まえて物を設計していかないと、今のことだけ考えたものを作ると、将来的には違うものになっている可能性もあります。今まで視察された庁舎というのはまだそれほどではなかったものが建っているのです、DX がかなり先進的に進んでいって、視察されたものとは全く違うものができるということを想定しておかなければいけないと思っています。

副市長

DXについてはおっしゃるとおりで、今よりも明日、明日よりも一年後、新しい庁舎が完成するのがまだ5年後ほど先の話でして、それまでには世の中が変わっていることだと思います。現時点で全て想定できるわけではありませんが、フレキシブルに対応できるように努めますし、市の中のいろいろなソフト事業についてもDX化は率先して進めていきたいと考えています。

D委員

現庁舎のお手洗いは決して快適ではありません。職員のことや来庁者のことを考えて、ぜひ対応をご検討いただきたいと思います。5年のことだから我慢しろとおっしゃるのか、福利厚生や職員採用を考えられた時にどうなのかというところをご提案申し上げたいと思います。

副市長

最近、洋式トイレが入ったりして、私からしたらそれなりに快適になってきているのですが、各家庭のトイレの水準から見ると、市役所のトイレはちょっとどうなのかと思うところがあります。特に2階などは男女兼用の入り口となっていて、これはいかがなものかと思っています。現状ではなかなか難しいところもありますが、できるだけ皆様に快適にご利用いただけるようにしていきたいと思っています。

F委員

先ほど地震関係の話も出ていましたが、元旦にいきなりあのようなことになって、問題も結構あったと思います。外に出たら片貝線にずっとハザードランプがついていて、片貝公民館でも70台車が待機していました。公民館を開けてほしいと館長の方にお願いがあったということで館長から電話が入り、自主防災はどうするという話になりまして公民館を開けました。本来なら市からの連絡をもって開錠するのですが、連絡がなかったことも一つ反省点かと思っています。そちらにいらっしゃる課長代理と一緒に一晩待機したのですが、30人ほど入ってこられました。毛布は70枚くらい持っていたのですが、一人2枚くらいの割り当てで配ったらもう足りなくなりました。ライフラインが使えたのでお湯を沸かしたり、暖房を入れたりしたのですが、それでも寒いということで苦労しました。先程話のあった海拔の問題ですが、市民の方は津波と海拔の仕組みをよくご存じないようです。このようなことが今後また近々あるとすれば、市から各地域に伝達する仕組みはしっかりしておいたほうが良いと思います。片貝公民館は先程も言いましたように暖を取れた部分は助かったのですが、副市長もおっしゃったように暖をとれなかったところもあったそうです。着の身着のまま逃げた人もかなりいらっしゃるのではないかと思います。これを教訓にして、新庁舎に向けて防災関係もしっかりと力を入れてやっていただきたいと思います。

それと、健康センターや第1・2分庁舎はいずれは壊すのでしょうか。そちらは市の所有地ですか。土地の再利用については売却などするのでしょうか。それらが新庁舎に統合されると当然来庁者も増えます。以前の委員会でも駐車場の混雑の話をされていたと思うのですが、そこら辺何か考えていらっしゃいますか。

副市長

最初の防災につきましては、非常に重要なことです。いくら立派な市役所ができたとしても、防災の時に市民の皆様がどのように行動し、市がどのように行動するか、そちらがしっかりしていなければよくありません。そのようなことについては早速今年から防災訓練などでしっかり取り組んでいきたいと思ひますし、防災計画もありますので、防災計画の中でもしっかり見直しをしていきたいと考えています。

駐車場の確保についても、これから建替にあたって検討すべき課題であると思ひます。入口前の駐車場が目に入ると思ひますが、実は市役所の山側にもあります。市の庁舎をどのように配置するかによって、駐車場の見え方も変わってくると思ひます。利用者の9割以上の方が車で来ておられるということですから、駐車場の確保についてもしっかり研究していきたいと思ひます。

分庁舎をそれぞれどうするかということについては、第1・第2分庁舎は市役所より少し後に建ただけで非常に古く、いずれ建て替える必要が出てくるということですので、新庁舎の中に入った方が今の段階ではいいのではと思ひています。例えば、第2分庁舎にある上下水道課と本庁舎3階にある建設課など課に分かれている組織の統合などによって、あるいは職員数の変化によって、例え入ったとしてもそんなに面積的に影響がない可能性もありますし、健康センターのように事業スペースが必要になるということもあります。最終的にどのような形が一番合理的なのかについてはこれから考えるのですが、健康センターは昭和56年以降に建ており新耐震基準であることから、今のところ施設的にはあまり問題はないので、将来的に後で一緒にするかもしれません。どれくらいの面積のものをどれくらいの人数で利用して、その結果どれくらいの費用が必要となるのか、総合的に検討して、その中で一番合理的な面積、施設内容にしていくべきと考えています。

F委員

市役所前の公園は一切触らないということで話を進めていたと思ひますが、万が一駐車場が少なくなるような状況になっても公園は今のまま使うという方向に間違いはないですか。

副市長

公園をなくすのがあまり良くないと言われたのは、ホテルからの景観が良くないということでしたので、高いものは建てないという想定はしています。公園を残しながら市役所を建てるということと、駐車場の配置がどうなるかということも踏まえて、台数計画をトータ

ルで進めていきたいと思います。できるだけ公園は公園として残したいと思っています。

G委員

D委員と同じような意見なのですが、将来人口の算定のところで、令和42年に30,100人の将来人口を目標にして、事業規模や建物の規模、職員数を決めるというのは非常に甘いと思っています。というのも、私は県の成長戦略会議も参加させていただき、同じグラフを見ており、この令和42年の時の合計特殊出生率が1.8でした。今は1.4で40年後に1.8に増えるのは、どのような根拠で算出されているのですかと県の担当者に聞きましたら根拠はありませんと言われました。どうしてですかと聞きましたら、このようになるために少しずつ出生率を上げていますと言われました。それで、1.8にするための戦略や何か政策があるのですかと聞きましたら「ありません」と言われました。それは目標の目標のような感じで実現不可能な数字ではないでしょうか。

これだけ大きな工事をするとき、この将来の人口というのはすごく大事で、こちらを基本にいろいろ決めていくのだと思います。合計特殊出生率1.8で算出されたような人口で計画するのはあまりにも無謀というか、本当にそれぐらいの政策をしているのであればその希望に懸けようかと思うのですが、根拠がないということには驚きました。ですので、こちらの青い線（社人研推計）の方で考えておいて、結果が上がったら御の字というような考え方ではダメでしょうか。

副市長

人口については対策をしませんということではなくて、いろいろ努力しますということなのですが、結果として目標人口にはならないことはあるかもしれないということだと思います。ですから今、国も将来は8千万人になると言われているところを1億人と言っているわけですし、急激に人が減ることをどこの市町村も望んではいません。今おっしゃるように、一番厳しい状況に合わせてやるべきだということですが、今から40年後のことです。そうすると、例えば10年後、そのあたりは逆にスペースが足りないという場合もあります。また、DXなどをできるだけ活用しながら、そこまで大規模なものを作る計画にはしませんが、そうは言ってもいろいろな機能でそれなりに必要なものも出てくるということですし、できるだけ財政負担にならないような形で、かつ非常に機能的で使いやすいものを目指して頑張っていきたいと思っています。

この将来人口で何が一番変わるかといえば職員数です。職員数が減っていくということで想定していますので、職員数についてはある程度厳しい見方で進めていくということも検討しています。市にとって過度に負担にならないような形での建設を目指していきたいと思っています。

G委員

この30,100人というのは、こちらには載せたけどそんなに影響しないということですか。

副市長

実際の人口というのは、この赤い線からすでに少し下回っているところです。これが完成する頃に行くとどれくらい下がるのかというのはある程度想定ができるのですが、その頃になるとこの線自体も見直しが行われると思っています。今はこの計画がありますからこちらに沿って進めるということで、この人口が永遠に市役所の規模に影響するということはありませんし、実際に職員数がどうなるかはしっかりと見定めて進めていきたいと思っています。人口計画そのものは5年に一度見直すということになっていますので、その中でこちらが見直しされるものと思っています。

C委員

G委員がおっしゃることもよくわかるのですが、この市役所を建て替えるのに、この人口にこだわる必要は、私はないと思っています。現在でも社長から平社員までワンスペースで働いているような時代に、今と同じような役所の建て方は絶対にはないと思います。DXもどんどん進んでいますし、そのようなことを考えると人口や職員数にこだわりすぎた建物を建てると、私としては後々良くないのではないかと思います。フリースペース的な建物として考えて、人口が減っていったとしても利用の仕方はその時代時代で出てくると思いますので、今現在のその人口の推移にあまりこだわらなくてもいいと思っています。

副市長

基本的にどれくらいの面積の規模のものを作るかというのはまず機能ありきだと思っ
ていまして、その結果としてどれくらいの面積ができるかというのがあります。とは言いな
がらも、人口のことについても、職員数のことについてもそれなりの考慮は必要だろうと思
っています。トータルで進めていきたいものですから、面積の減る要因と増える要因があると
最初の方に説明いたしました。それらの中でどのように組み合わせをしていくかという
ことが重要だと思っています。しっかりと将来に禍根を残さない形での市役所にしていき
たいと思っています。

H委員

本日も説明いただいて様々な検討事項が出てきたわけでありまして、皆様おっしゃるこ
とも含めて、私たちは今まで以上に検討事項に対して考えていかななくてはいけないと思
っています。新庁舎として必要なことは、働きやすい環境が第一だと思っています。微力なが
らしっかりと考えていきたいと思っています。

F委員

魚津で産みたい方もいらっしゃると思うのですが、魚津市内には産婦人科が少ないので
他の市へ産みに行ったりしておられます。子供が少ないのもあるかもしれませんし、なか

か結婚されない方もいます。産婦人科については、確か市長の1期目の公約にあったと思いますが、今後どうなるのでしょうか。

副市長

現在、魚津市では産婦人科では出産する場所はないということで、一番近いところは黒部市です。滑川もなくなりましたし、入善には民間で1件あるという状況でして、これがさらに厳しい状況になってきています。今後どうなっていくのかということですが、そもそも出産数が非常に少ないということ、それと産科医が減っているということ、さらに労働基準法の関係で厳しい状況に追い込まれています。市の方でもこのような計画で動いていたこともあるのですが、今は非常に厳しい状況に追い込まれています。魚津市だけではなく、富山県全体でそのようなことになっています。病院もそのような状況にあります。これから医療関係機関もどんどん統廃合が進んで、規模に応じたものになっていくと思っています。これから人口減少というのは、いろいろなところに影響を及ぼすという状況には間違いなくなくなっていきますので、そのようなことも見据えながら、いろいろなものに対して対策をしていくということになろうかと思います。出産する場所はないですが、その前後については市の方でケアしていくということについて今努力をしているところです。

E委員

ちょっと不勉強なので教えていただきたいのですが、28ページに総務省の起債対象事業費算定基準による必要面積の試算と書いてありまして、その中に平成22年度に廃止されていますが、現在でも多くの自治体の新庁舎規模試算に活用されているという記載があります。市民の目から見て、廃止しているけれども今使われているという所まではわかりますが、それをどうしてこのページに1枚割いて、市民に示そうとしているのかという理由はちょっとわからないので教えていただけないでしょうか。

事務局

総務省の基準は、建てる時にその地方団体がいくらまで借金をしていいかという金額を出すための基準でありまして、今はご承知の通り基準が廃止されていますが他の自治体で新庁舎を建てる時にも参考の基準の一つとして使っているの、今回載せさせていただいています。ただ、今私が述べたことを「廃止されていますが」という文言を見て判断できる方は少ないと思いますので、この辺の文言は考え直したいと思います。

委員長

ご質問も含めてたくさんご意見をいただきました。そろそろ取りまとめをさせていただいてよろしいでしょうか。

デジタル化されたものの管理は大変ということ、デジタル化に伴ういろいろな懸念がありました。

将来人口の算定に関して、人口減社会への対策を毎年たくさん盛り込んでいただいています。すぐに成果が出るものもありますが、時間がかかるということだと思います。G委員も指摘されたように、魚津市にとっては生き残りをかけた戦略という、いかに人口減を、政府の言っている厳しい状況ではなく、できるだけなだらかな方にしていくかということに挑戦することが大切だと思っています。それは、魚津市の生き残り策として重要なことだと思っていて、今まで以上に何とかなだらかなカーブで人口減を食い止めていく、そのような施策をどんどん取り入れて成果が出てくることを念願しています。

防災対策について、日頃からの訓練が重要ということです。市役所から地域への情報の伝達や周知、いかにうまくコミュニケーションが取れるかということだと思います。市民の皆様も情報をしっかりと理解していただいて訓練も必要ということです。

新庁舎の整備については、人口の推移にそれほどこだわらないでフレキシブルに対応しようというご意見もいただきました。人口の推移から対策が大切ということを申し上げましたが、新庁舎の整備に関しては、確かにもっとフレキシブルに考えた方がいいと思います。市役所の職員の方にとっても働きやすい職場であるべきです。財政のことなど専門の方々が今日プレゼンしていただきましたので、委員の皆様は今よりも心配の程度が下がったと思います。

先ほど申した毎年のいろいろな施策、人口減のカーブをなだらかにするのに役に立つことをどんどんやっていただきたいと思います。出産数が少ないあるいは産婦人科がないことについても、魚津市として対応していただけるようにと思います。

新庁舎整備に関すること、その他のこともありました。皆様から貴重な意見をたくさん頂戴いたしました。それらについてまとめさせていただきました。その他にも、事務局側で録音などを起こして議事録にさせていただければ、もっと皆様のご意見をうまく把握することができると思います。本日の議題（1）はこれで終了しました。次にその他の事項につきまして事務局からお願いします。

事務局

様々なご意見をいただきありがとうございます。今日いただいたご意見を踏まえて、一部基本構想案を修正した上でパブリックコメントにかけさせていただきます。なお、冒頭に申し上げましたけども、ご意見いただくのは今日で終わりというわけではありません。見返した後などにおかしいなどお感じになったことがありましたら、次回の検討委員会等でご意見を頂戴できればと思っております。本日はどうもありがとうございました。

委員長

本日、前半と後半に分けて、議題（1）基本構想案について皆様からご意見をいただいたのですが、最終的に皆様から修正意見に相当するものをいただいた場合に、原案の修正に関しまして、会長の責任で修正させていただくということでご了承いただきたいのですが、いかがでしょうか。ありがとうございます。

以上で予定された案件はその他を含めまして終了しました。事務局からその他に何かあればお願いします。

事務局

連絡事項です。次回の会議は、3月19日に開催し、パブリックコメントの実施結果の報告と、基本構想について改めてご意見をいただくことを想定しております。会議の出席依頼は、後日送付しますのでよろしくお願い致します。事務局からは以上です。

副市長

本日は貴重なご意見をたくさんお聞かせいただきましてありがとうございます。市の庁舎を建て替えるということは何度もあることではございません。皆様方のいろいろなご意見があると思います。一つ一つ丁寧に考え、対応していきたいと思っております。ありがとうございました。

以上